まざまな地図を求めて来館される方も多く，図書館，自分ともに力不足のため要望に応じ切れぬもどかしさを一方に背負いながら，目ざすものの見つかった喜びを利用者の方の顔に見る時は疲れを忘れます．

Map librarianshipという言葉は，日本語では何といったらよいのでしょうか．世界的にみると，議会図書館や英国図書館（いずれも莫大な地図のコレクションで著名）等々を擁するアメリカ，イギリスをさきがけとして，4，50年程前から，Map librarianship の研究，連絡組織が結成されはじめ，国際的な図書館協会の連合体であるIFLA (Inter-national Federation of Library Associations)にも，Geography and Map Libraries Sectionが置かれるなど，Map librarianshipなるものが確立されて来ています．日本はまだ残念ながら，そこまで到達できておりません．かく申す私も，こうした流れの中で何がしかの役割をになうことがかなうならというあせりにも似た気持がないわけではありませんし，地図そのものについても，勉強したいこと，しなければならないことが山ほどありと，当分，生き甲斐？にこと欠くことはなさそうな毎日ですが，生来の怠け者ゆえ，いずれも初夢のうたかたと消え，しぼんでしまいますかどうか…….

（9回生　国会図書館）

"染め"との出合い

中　間　芙美子

30才も半ばをすぎると，残りの人生をどのように生きてゆこうかということを，若い時とは違った気持で再認識し，よし今ならまだ間に合うと自らを励まして進路の修正ができるそんな時期なのかも知れません．

私も，公務員という，共働きの諸条件が比較的整備されている職業で，働き続けること12年目，不規則な時間帯で仕事をすることの多い夫を持ち，二人の子供の保育園送迎，家事雑用に追われ，忙しい毎日を送っていますが，ただ忙しいだけの日常では（忙という字は立心べんに亡うと書くように，心を失うということは忙しさの空しさを表わしている），いつの間にか心を失う怖しさもあるように思い，下の子供がもうすぐ5才になる現在（子供を保育園育ちにすることについては，いろいろ不安もあり悩みましたが，母親が昼間一緒にいないことが，子供の心の傷になるのか，又は自立へ向かう心を育てる糧になるのか，それを分けるものは，子供を思いやる母親の愛情が子供にしっかり伝わっているかどうかであるということを日々の体験を通して実感し，今までのところ比較的よい関係を保てていると自負しています）自分のライフワークとも言えるようなことをやりたいという気持がジワジワと表出するようになりました．自分の気持に忠実に，決して背伸びをせずいったい自分は何が一番やりたいのか，ということを時間をかけて心に問い続けてきた結果，職場での仕事が創造の喜びを味わうということからほど遠いためかも知れませんが，染色にたどりついたのです．そのためには生活上の様々な条件整備も必要となりましたが，今は，ちょっとした関係で知り合いとなり教えていただくことになった更紗染め（チャンチンという素朴な道具を使用してのろう描き＝パディック＝の細かい模様はむずかしく，根気がいり，仲々思うようにはいきませんが，インド更紗や，ジャワ更紗の美しさにはただ，ただ目をみはるばかりです）と，身近な草木を利用しての植物染めにとり組んでいます．まっ白な布に思いの色を，思いのデザインを染めるということは本当にすばらしいことです．そして，また，すすき，びわ，よもぎ，毒だみ，玉ネギ，刈安，梅，桜 etc. あらゆる植物が染料になるおどろきはまた格別です．染織家の志村ふくみさんの「それらの植物から染まる色は，単なる色ではなく，色の背後にある植物の生命が色をとおして映し出されているのではないかと思うようになりました」

という言葉にもありますように経験の浅い私にとっても，まるで憑かれるという言葉があてはまるように，引きずりこまれてゆく心地よさに身をまかせているような状況です．

有給休暇を切りきざむように利用しながら，アトリエへ通ったり，展覧会をみたり，図書館にデザインの手がかりを捜しに行ったりの，遅々とした歩みではありますが，10年後を夢みて，そしていつの日にか染めの世界ですごしてみたいことを夢みて，仕事を，家事を，子育てを何とかがんばっている今日この頃です．

最後に，「染め」についてのあらゆる情報，大歓迎ですので，皆様方何卒よろしくお願いいたします．お身体ご自愛の程を!!

（17回生　文京区役所）

疫学者のヒヨコから若い地理学徒に願うこと

松　崎　正　子

大学院で自然地理学を専攻した私にとって，人間的要因が窮めて多く入り込んでいる疫学への転向は，決っしてスムーズなものではありませんでした．6年を経過した今日まで，幾つか自分の仕事をまとめながら，常に多くの不満を残してきました．地理学としては，疾病あるいは医療の問題の空間的分布と環境要因との関係を十分に説明できない不満．疫学としては，地域社会に還元できる具体的な予防方策が立てられない不満等々．

私の仕事は，籾山先生が先駆者となって，日本の地理学に導入された医学地理学にも，居心地よく納まりきれない感じがいたします．医学の知識はとてもとても少ないながら，6年を結核の仕事に費やしたという経験が，いつの間にか私を，地理の世界から医学，特に疫学の世界に引きずり込んでいたようです．疫学の分野には，私の知る結核一つ取ってみても，地理学の分野でとても興味ある研究対象が，沢山埋れているように思われます．

皆さんも御存じのように，1940年代まで猛威を振っていた結核は，生活水準の向上，抗結核剤の登場によって，急速に減少していきました．そして，その変転の時期は，また日本の結核まん延地図を塗り変える時期ともなったのです．1940年代まで結核は，東京・大阪などの大都市や，北陸地方など紡績産業と関連の強かった地方に，多くまん延していました．それが1950年代から，次第に西南日本に偏在していくようになったのです．

1981年厚生省の結核に関する定期報告では，西日本は東日本に対し，死亡率では1.59倍，その年に結核として届けられた患者の率，すなわち罹患率では1.63倍となっています．今日，結核まん延の地域格差は，結核対策上の大きな問題であり，それに対し数々の研究がなされてきました．新しい結核対策の導入の遅れ，都市化の程度，経済構造，所得の問題等々が，結核まん延の地域格差の要因として取り上げられてきました．しかし実際には，どの要因が，どの程度，どの様なメカニズムで他の要因と影響し合い結核まん延地図を描いてきたのかは，まだ不明のままなのです．

結核を天然痘同様この世から根絶することは，不可能ではありません．感染症である結核は，人から人へ伝わる結核菌の伝播を断ち切れば良いのです．この為には，結核の患者が咳や痰などの呼吸器症状を出し，医療機関を訪れ，結核と診断されて治療を受けるまでの期間，すなわち，結核菌を地球上に散布している期間を短くする努力が望まれます．

患者の症状出現から初回受診までの期間を，私達は Patient's delay，初回受診から医師の診断までを，医師側の責任による遅れとして，Doctor's delayと呼びます．このDelayについての調査結果は，Patient's delay，Doctor's delay とも，地域によってかなり違うという興味ある結果でした．そこで，私は特に Patient's delayについて，それの短い新潟県と長い沖縄県を選び，数